

緊急人道支援学会 第3回大会

時間	発表者	所属	発表題目(タイトル)	発表内容
D501号室 自由発表セッションA 座長 柴田裕子(緊急人道支援学会 理事)				
10:00-11:30	石山 祐一朗	福島県	人道主義の、‘空っぽ’の魂:人道原則を問い直す	人道・公平・中立・独立の四原則のうち、人道原則に焦点を当てる。苦痛軽減がなぜ人道的といえるのかは人道原則を主題とした限られた数の先行研究でも掘り下げられていない。赤十字の歴史的テキストや基本原則もその内実を十分に示していない可能性を指摘する。反出生主義を参照し、人道主義を再解釈し、苦しみと闘うことの倫理的意義を問い直す。
	高田 昭彦	復興ボランティアタスクフォース/富士フィルムビジネスイノベーションジャパン	支援の利己/利他、調和/ジレンマ-主観的解釈より読み解く-	国内災害ボランティアの調整構造を批判的に検討する。社協中心の公募型モデルの陰で、NPOや技術系の非公式な調整が存在し、専門職ボランティアの位置づけも曖昧である。支援者間対立や提案地獄により災間期の改善も停滞している現状を、囚人のジレンマ等のゲーム理論を援用し分析する。
	樋谷 恒孝	神奈川大学	国連安保理における「世界最悪の人道危機」言説のレトリック —テキスト分析による「忘れられた紛争」の再検討	1946年から2024年にわたる国連安全保障理事会(以下安保理)の全会議記録を網羅した包括的データセットを用いた計量テキスト分析により、人道危機に関する言説構造とその政治的背景の解明を目的とする。
D601号室 自由発表セッションB 座長 堀江良彰(難民を助ける会AARJapan 理事長)				
9:30-11:30	益田 充	日本赤十字社和歌山医療センター	ハリケーン・メリッサにより被災したジャマイカに対する緊急医療支援に参加して	2025年のハリケーン・メリッサ被災後、ジャマイカでの赤十字緊急医療支援に参加した経験を通じて感じられた、緊急人道支援の現代的な潮流と課題について、実例を交えて紹介する。亜急性期における慢性疾患対応、心理社会支援や支援者支援の重要性を示し、異常気象下の安全管理、通信環境の影響、SNS活用など現代的人道支援の潮流と課題を整理。
	石川 航	立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科博士後期課程	長引く危機への日常的応答——在日ミャンマー人ディアスポラの実践を事例に	2021年のクーデター以降のミャンマー人道危機に対し、在日ディアスポラがいかに対応してきたかを分析。寄付や資金送金、情報発信などの実践は、匿名性や可視性管理を伴う持続的かつ倫理的判断の結果である。日常的抵抗と価値実践の理論を用い、「緊急」と「日常」が交錯する越境的危機管理として再定位する。
	新田 望乃佳	文教大学	能登半島と都心部における子ども食堂の支援形態の比較研究	
	野口 幸洋	NPO法人TMAT/岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科ヘルスケアサイエンス部門看護科学領域	政治的制約下における大規模地震後の医療支援の実際 — 2025年ミャンマー地震に対する日本NGOの対応とオールジャパン連携 —	2025年ミャンマー地震に対し、政治的制約下で活動した日本NGOの医療支援を報告。ビザや安全上の制限により多職種派遣や継続支援は困難であったが、現地NGOや他の日本団体、JDRとの連携により診療を実施し一定の継続性を確保した。政治的制約下では日本チーム間の平時からの関係構築と連携強化の意義は大きい。
D602号室 自由発表セッションC 座長 堀江正伸(青山学院大学 教授)				
10:00-11:30	斎藤 之弥	日本赤十字社	国際緊急人道支援に求められる人材とは	国際情勢の変化とリスク増大を背景に、緊急人道支援に求められる人材像を検討する。国際赤十字が実践から構築・適用してきた「コア・コンピテンシー・フレームワーク」を解説し、20項目・3職位階層で整理された基礎的能力を共有。育成・採用・評価の共通枠組みとして活用する意義を提示する。
	高田 みほ	国立精神・神経医療研究センター 認知行動療法センター	人道危機の影響を受けた低・中所得国にルーツをもつ成人に対する認知行動療法	人道危機の影響を受けた低・中所得国出身成人に対するエビデンスに基づく精神療法として認知行動療法(CBT) CBTの有効性を文献レビューで検討。人道危機下におけるCBTの適用可能性を支持するとともに、文脈に応じた介入設計と評価の重要性を示唆する。
	岡本 京子	神戸大学大学院 国際協力研究科	災害後の住居移転を経験した若者の社会関係構築と地域への想い: フィリピン・タクロバン市の事例	2013年のスーパー台風ヨランダ後にフィリピンで実施された大規模住居移転政策を事例とする。特に、移転当時10~15歳であった若者に焦点を当て、住居移転経験、移転後の人間関係の再編、そして現在の地域への想いを明らかにすることを目的とする。
D603号室 自由発表セッションD 座長 小松太郎(上智大学 教授)				
10:00-11:30	関口 正也	株式会社オリエンタルコンサルタンツグローバル	難民キャンプにおける熟議によるガバナンスは難民の「尊厳を持って生きる権利」をいかに実現するのか? ~緊急人道支援の危機における難民の「主体性」の回復~	本研究では、JICAが支援し、発表者がJICA専門家として従事した「パレスチナ難民キャンプ改善プロジェクト(PALCIP)」を事例とする。政情不安と資金不足という「複合危機」における、意思決定の主体性を育むガバナンス支援について考察する。
	新沼 剛	日本赤十字東北看護大学	有事における人道機関による国民保護活動: 各国赤十字社の活動を中心に	有事の国民保護における人道機関の役割を検討。ジュネーヴ諸条約を法的基盤に、日本とイスラエルの体制を比較し、2023年襲撃後の事例を分析した。イスラエルでは避難の統括不在による混乱が生じ、救援ではMDAが中心的役割を果たしたが、安全確保や広域搬送体制に課題が示された。日本への示唆を提示する。
	小荒井 理恵	教育協力NGOネットワーク(JNNE)	「アフガニスタンの女子教育継続におけるノンフォーマル教育の役割 —ホーム・ベースド・スクールの事例から—」	